

## 三重県中国ビジネスサポートデスク現地レポート

平成28年4月28日

上海デスク(上海納克名南企業管理諮詢有限公司)

### 井の中のニッポン、中国を知らず？

ここ数年の日中間の政治的緊張に端を発する日本マスメディアの報道姿勢は日本人の対中ビジネスに何をもたらしているのでしょうか。

### 日本国民は中国のネガティブニュースが大好き？

先日、日本のゴールデンタイムのニュース番組を視聴した際、トップニュースが中国広東省東莞市で発生したクレーン車の倒壊事故でした。また以前にも、同じ広東省の深圳で発生した建設残土の大規模な土砂崩れがトップニュースで取り上げられていました。これらの事故は日本に直接的に影響があるとは思われないのですが、何故トップニュースとして扱われたのでしょうか？

長年中国で活動する某日本人経営コンサルタント曰く、日本の報道機関の中国駐在記者は中国の良い面・悪い面をそれぞれ記事にして日本のデスクへ送るそうなのですが、良い面を書いた記事は却下されることが多いそうです。理由として、中国の良い面を書いた記事は日本の読者のニーズに合致しないとのことで、その結果、日本のマスコミは中国のネガティブな面のみを報道し、標準的日本人の深層心理に中国に対するある種の優越感を植え付けているようです。上述のニュースもその流れにあるのかも知れません。

### ステレオタイプではない「ありのまま」の中国を知る

筆者は現在北京に駐在し、日本からの来客応対も多いですが、ほとんどの人が思ったより空気がきれいだという感想を述べます。確かに昨年は驚くほど大気が汚染された日もありました。それは年間数日で、日本に比べれば悪条件かも知れませんが、普段の日常生活にはあまり支障はありません。

日本で得られる情報は、北京の大気汚染がひどいという事と、昨年秋の抗日軍事パレードの際に周辺工場の操業停止や自動車の乗入制限などで強制的に青空を造ったという情報に終始し、改善については日本では「需要がない」ので報道されません。その結果、日本でネガティブな中国情報にしか接していない日本人は、中国に来て初めて自身の認識のギャップに気が付きます。

これは日本企業の対中ビジネスについても、同じことが言えるのではと筆者は考えています。勿論、既に中国ビジネスを展開している企業には現地法人からありのままの情報を入手し判断している場合も多くあります。しかし全ての事象について日本が中国に比べ優位であるとはもう言えません。

例えば、最近話題の「フィンテック」に関しても、中国では「支付宝」や「微信」等のスマホアプリを通じた電子マネー決済が急速に普及し、ネット通販や実店舗での決済の他、個人間

の電子マネー送金や少額貸付など、その仕組みや利便性では日本より大きく先行している  
と思われます。最新ビジネス分野においては、日本人は中国に対し「ありのまま」の「事実」  
を認識しなければならない時期に来ています。